

アリシア・コレデラ ICAP副総裁（アジア・中東担当）の話

私たちは革命に忠実にやっっていく

まとめ 井ノ上節子（栃木県）

①2014年は大きな成果をあげた

152カ国で2037のキューバとの友好の行事がもたれた。国際ブリガードは18回実施され、いずれも地方に行った。AMISTUR（旅行社）や、その他を通してキューバに来た人は1万人を超える。

2015年12月30日はICAP55周年記念の日。ICAPとしては年間を通してイベントを行っていく。様々な地域での友好行事を予定しており、ベトナムのハノイでは、9月8日～9日に第7回地域連帯会議が開かれる。この会議に、日本からも沢山参加していただきたい。

このケースはアジア地域の連帯会議だが、その他の地域での連帯会議も計画しており、ぜひ、いろいろな友好団体の参加を得て、未来に向けての友好の形を探っていきたい。

②USAから5人のうち2人が帰国していたが、昨年12月17日以降3人も戻った

5人は、平均して16年間米国の獄中にあった。彼らが祖国に戻るために連帯運動が継続して行われてきた。戻ったからと言って連帯の力が低くなることは無い。その力をさらに強い効果的なものにしていかねばならない。

日本では、5人解放百人委員会が大きな働きをしてくれた。弁護士たちも活動してくれた。5人の解放のために努力してくれたその力を、更なるキューバとの連帯のために振り向けていただきたい。

③経済封鎖反対を続ける

国交正常化交渉を始めるための両国首脳による電話会談、直接顔を会わせた首脳会談で、経済封鎖が話題となった。オバマ大統領が米議会にむけ封鎖柔軟化のための提案をする話はあるが、まだ何も進んでいない。このため私たちは経済封鎖反対を続ける。

④これからも世界の大義を維持していく

ベネズエラの人々との友好も進める。アフリカのエボラ出血熱には、それが起きたときからわが国は、医療支援をしてきた。世界の大義を維持するために、われわれは世界の人々との連帯を続ける。

⑤われわれがやっていきたいことのひとつは、キューバの現状を広く皆さんに伝えること

■2011年4月18日、第6回共産党大会で可決された313件の政策

共産党大会前に様々なレベル、様々な団体、地域で討議が行われ、これを受けて党大会が313件の政策を可決した。第6回で決議されたのは、社会主義を維持していくことだ。



筆者（左端）とアリシア・コレデラ ICAP副総裁（右端）

もちろん、経済発展をはかる。可決されたことを活かし、人びとの暮らしのレベルを上げる。経済的には社会主義体制のもとで、これからも経済を運営していく。基本的生産は、社会主義のもとでやっっていく。革命の成果である医療、教育、社会福祉などの無料化は、これからも維持される。党大会の結論は、社会主義体制でできたものを、維持していくことができるということ。

党大会の後、決議されたものがどのように運営されているかチェックする機関として、全国政策実施調査会議ができた。調査しサジェスジョンを与える役割を持つ。会議の首長はマリーノ・マリージョという国家評議会メンバーの一人。国会で必要な法的措置をとれるようにサジェスジョンすることもできる。あらゆるレベルで、この機関から指導がある。

私は、ICAP副総裁だが、政策を実施するにあたり、経済的意味合いを考え、その効果を高めるために、優先順位を決める。

さらに、例をあげる。医療費は無料だが、一つの手術がいくらかかるか、経済的観点で見よう勧めている。2012年の党会議でも、指導部の役割、党の役割を重要なものとしている。

■第6回党大会後に変った幾つかのこと

家を持っていても、車を持っていても、売れなかったが、これを売れるようにした。

国民に非常に大きなインパクトを与えたのが、移民政策の変換。キューバから外国へ行くことは、これまでは特例だったが、今は特例ではなくなった。以前は、海外に家族がいるとか、海外の人が呼んでくれるとかが条件だったが、今はそれがなくても行ける。自分が行きたいときにビザが出て、お金が調達できれば行けるし、キューバに戻ることもできる。以前は中央集権的にコントロールされた経済だったが、今は、私有の部分が広がっている。協同組合は、以前は農業分野

2015年春キューバツアー行程表

2015年4月23日～5月7日

日付	時間	訪問&活動
4月23日(木)	5:40 PM 4:40 PM 6:55 PM 10:25 PM	羽田発 AC-006 便 トロント着 トロント発 AC-1748 ハバナ着 ハバナ泊
24日(金)	9:00 AM 11:00 AM	*パナマ連帯学校訪問 *I-CAP訪問 アジア副総裁他政治分野 担当官達との意見交換 ハバナ泊
25日(土)	9:00AM	*協同組合「ラ・カノーナ・デ・17」 訪問 *サン・ホセ・マーケット(民芸品) *旧市街散策 ハバナ泊
26日(日)	8:00AM 2:00PM	サンタ・クララに向け出発 フィンカ・フィエスタ・カンペシーノで休憩 *サンタ・クララI-CAPにて 日本食ワークショップ サンタ・クララ泊
27日(月)	9:00AM 10:30AM	*病院訪問 サンタ・クララ総合病院 産科病院・救急部門/小児病院 *I-CAPにて昼食 *ゲバラ霊廟訪問 サンクトウ・スピリトゥスへ出発 *夕食後グアヤベラ博物館見学 サンクトウ・スピリトゥス泊
28日(火)	9:00AM 午後	トリニダーへ出発 *トリニダー建築博物館見学・製陶所 見学・塔の見学 *サンクトウ・スピリトゥスのI-CAPにて オタク・クラブとの文化交流 *夕食後グアヤベラ博物館で交流 サンクトウ・スピリトゥス泊
29日(水)	8:00AM 午後	バラデロへ出発 ホテル・ブラヤ・デ・オロ到着 *旧デュボン邸見学 バラデロ泊
30日(木)	午前 午後	バラデロビーチにてフリー ハバナ向け出発 ☆参加者14名中12名延泊 ハバナ泊
5月1日(金)	5:00AM 10:00AM	ホテル出発 *革命広場でメーデー参加 メーデー解散 ハバナ泊
2日(土)	9:00AM	ホテル出発 *自然保護区ラス・テラス見学 カフェ・マリア 版画家アリエルの工房 画家レステル・カンバの工房 ポロ・モンターニェスのCD カノピ *昼食後レストラン裏のコーヒー 農園跡見学(奴隷労働の様子) ラス・テラス泊
3日(日)	9:00AM 10:30AM	*ソリア蘭園(竹内憲二氏ゆかり) 見学 ハバナ向け出発 マリエル特区の の近くを通過(車内から) ハバナ泊
4日(月)	10:30AM	*国立芸術大学造形学科訪問 *ヘミングウェイ博物館見学 ハバナ泊
5日(火)	10:00AM	*遺伝子工学センター訪問 *ボデギータで昼食後 ハバナ旧市街散策 ハバナ泊
6日(水)	5:00AM 8:00AM 11:30 AM 1:40PM	ホテル出発 ハバナ発 AC-1749 便 トロント着 トロント発 AC-005 便
7日(木)	3:35 PM	羽田着

だけだったが、サービス、レストラン経営や交通部門でもできています。現在、498件の協同組合がある。サービス業分野では、飲食店1万2998軒の店ができた。

輸出を増やし、輸入を減らし、国の生産を高めることが行われた。輸出を増やすには、国内の生産の質を上げなければならない。これを重要視している。経営システムを中央に集中させず、非集中化している。

観光客は、前年より4%増加した。

キューバが持っている負債の支払いを進めることを、重要視している。ロシアとは、交渉の末、負債の90%までが無くなった。長いプロセスとなるがやっていく。

昨年3月、新しい外国投資法が成立した。どこの分野に投資できるかが肝心。重要案件が246件ある。食糧、運輸、バイオテクノロジー、環境など。前は優先課題が明確でなかった。が、今は明確化して、246件としている。

外国からの融資をはかり、マリエル経済特区を造成中だ。キューバ通貨も一本化する。国内ペソとCUC(兌換ペソ)を一本化する。非常に難しいが、もう始まっている。まず、国営の分野で進め、最終的に一般の人びとの間での一本化をはかる。

まだ小さい規模だが、47万7000件の個人営業がある。経済的な面ばかりでなく、社会的側面、たとえば医療サービスの向上などにも力を入れている。去年、医療分野、教育分野など重要な仕事をしている人の給料がアップした。一般的なキューバ人の給料は低いが、その中で例外的にこういった措置がなされた。

■いつも尋ねられること

キューバはどこへいくのか？ 資本主義になるのか？ われわれの基本的立場は、弱い人たちや子ども、人間性を中心に考える社会主義を進めるということだ。新たな方策は、いつでも人間性を尊重し、革命が成し遂げてきたものを維持し、社会主義を守るということだ。

⑥対米交渉について

4月17日、キューバ人誰もがエーッ！という感じで流れたニュース。それは、オバマ大統領と国家評議会議長ラウルの会談だった。確かに歴史的出来事であった。何年もの間、多くの人びとが関係正常化を願い努力してきた。多くの報道は間違っているのだが、米・キューバが関係正常化を決めたというのではなく、実は国交回復のプロセスの第一歩が始まるということだ。

1月22日にアメリカ側代表とキューバ側との会議が始まった。2月27日、同じチーム同士がアメリカで会って、2回目の会議をした。報道によれば、互いに敬意をもって理解を深めたという。キューバとしては最初の会議から、国交回復のためには、テロ支援国家からはずさなければならないと主張してきた。

キューバはテロ支援国家ではなく、テロ反対の国家なのに、指定は不当なことだ。オバマはテロ支援国家リストからはずすことを米議会に出すといい、45日間待つことになっており、われわれも今、待っている最中だ。

もう一つキューバが要求していることがある。1年以上アメリカの銀行を使つてのオペレーションができずにいて、外

交上、難しい状況にある。銀行がオペレーションをすることを望んでいる。また、ウィーン条約で決められたことを守ることを要求している。外交上、内政干渉しないことを守れということだ。

2月の第2回会議で、民間航空、通信、キューバからの不法移民問題などについて話しあわれた。パナマでのラウル・オバマ会談後、アメリカから多くの国会議員や、ビジネス界の人たちが、キューバに来た。政界の人たちや外国投資法に関わってやってきたビジネス界の人たちは、「アメリカがとってきた孤立政策は間違っていたことを認識した」と言っている。

アメリカは、people to people と言っているが、まだそうはなっていない。12月16日にオバマが言っている。「このような流れが、キューバの民間社会に良い影響を与えるだろう」と。

こういう流れにもかかわらず、私たちは、注意し警戒して見ている。なぜなら、パナマ侵攻やベネズエラのことがあるからだ。

ただ、いろいろあるが、キューバの友人たちに言いたいのは、互いの違いを認めた上で、両国関係の正常化を図ることが不可欠ということだ。互いの違いを認めて共存することが大事と、ラウルも言っている。

心配してくださっている皆さんに言いたい。

私たちは、革命に忠実にやっていく、と。

Q&A

Q 来日したカプリサス国家評議会副議長は、両国関係正常化は時間がかかると言っていた。交渉開始以後、どうか？ 今の段階で、交渉は順調か、難航か？ 見通しはどうか？

A 交渉は続いており、動いている。長期にわたる良好でない関係があり、急に焦って物事をするのではなく、時間をかけてやっていくことが大事。

Q 米国への要求に、経済封鎖解除とグアンタナモ基地返還が入っていないが。

A 国交回復するために、経済封鎖を解け、とは言っていない。関係正常化交渉の中で要求していく。

Q 国交回復は象徴的なできごとか？

A アメリカにキューバ大使館、キューバにアメリカ大使館を設置する。両国の大使館を作るため、わが国をテロ支援国家リストからははずすよう求めている。

Q 関係正常化のあとアメリカの資本が殺到してくるだろう。

1000万円届けました！ 加藤玲子（キューバ友好円卓会議事務局）

昨年は800万円、今年は1000万円、無事にキューバ、サンタ・クララ市の病院へ届けることが出来ました。昨年にして、今年にして、一緒に行った方達の協力がなければ、実現しなかったことなので、皆さまに感謝です。寄贈者の方からは「私は、カストロさんの大ファンです。カストロさんは、私の人生を豊かにしてくれた存在ですから、そのことに対して、たとえ僅かでも感謝の気持ちを表したい、ただただその思いだけです。その思いをキューバの皆さんにお伝えください」とのメッセージでした。

今年の寄付先の一般病院と小児病院の両方を訪ねました。どちらも大きな病院でした。一般病院の院長へ寄付金を渡しました（写真）。二つの病院とのことだったので、二つに分けていたのですが、金庫は同じとのこと、昨年、顔なじみになった責任者の方と書類の取り交わしをしました。一般病院では、サトウキビ刈りのキャンプのお医者さんだったマチャド医師にも会うことが出来、まだ、現役で働いておられ感激しました。昨年、寄付金を届けた産科病院も訪ねました。実は、寄付金で行う設備環境改善工事は、まだ始まっていませんでした。日々、出産、手術が行われているので、工事の間、それを移す場所が必要で、そちらの方の工事が行われていました。きれいにペイントされ、ずいぶん作業が進んでいる様子でした。8月より寄付金による工事が始まる予定とのことでした。

予想より遅いですが、経過を確認することが出来、良かったです。寄贈してくださった方の厚意をキューバの人々に届けることが出来、安堵しています。

ハバナ市、2015年6月8日

キューバ友好円卓会議 共同代表 岩垂弘様

敬愛する友人 弘さん

先日貴殿からの手紙を大きな喜びを持って受け取りました。それは貴殿が率いる円卓代表団が先日我が国を訪問した際受けた心遣いに対する礼状でした。

あなた方の行為に感謝しなければならないのは私たちの方です。特にここ何年にもわたる日本からの我が国に対する継続的連帯に対し深く感謝しています。

今回円卓代表団の訪問に直接係った各州のICAPにも貴殿の手紙のコピーを送っておきます。

皆さんがキューバで得た情報は、両国民間の新たな友好・連帯活動を広げるのに、役立つことをよく知っています。

これから先も円卓の訪問団を迎えることができるよう望みます。皆さん方を、それにふさわしい細心さを持って対応したいと思います。

我々の感謝の気持ちをお受けとりください。私から最も深い敬意をお送りします。

キューバ諸国民友好協会（ICAP）

副総裁 アリシア・コレデラ・モラレス

う。キューバ国内の所得格差が進むことにならないか？

A とくに心配していない。国内でやっていかねばならないことはある。

Q 例えば、アメリカの企業ができてキューバ人を雇うと、給料が違う。

A 今でも合併企業、個人企業との格差はある。到達目標として、格差がなくなるようにしていきたい。

Q 社会主義を大事にし、市場経済を導入していくと、去年言われた。今年それが出てこないが。

A 市場経済とは言っていない。プランフィカシオン（計画策定）とコントロールと言った。

Q 人は、有るものの有難さを忘れがち。無料で受けられる有難さを、分かっているのか？ 教育をしているのか？

A 政治社会教育と言っている。私たちはずーっとこうして教育してきた。前の世代の人たちが血を流して獲得してきたものと、教育している。大事にしている価値観は、教育の中で教えている。

